

社会人になってから言葉を勉強しても、間に合わない

池崎 日本の子供たちが小さい時から大学を卒業して仕事をする前までに、どういう表現を自然に身に着けておくと楽に社会にデビューできるかということ、今の親が考えていく必要も併せて問題提起をして行きたいと思っております。

近衛 私も、社会人になってからやったのでは間に合わないと思います。いくら努力しても、身につかないということです。

池崎 という意味では、本人の問題だけではなくて取り巻く親や、学校の先生や、社会や、地域が、そういう若い方々をサポートできる体制になっていないといけません。

近衛 そうでしょうね。家庭だって親父が帰って来る時に食卓でも話題がないとか。今本当に一家団楽というのがなくなって、みんなでバラエティー番組を見ながら黙々と食べるしね。終わったら、さっさと部屋に行って、子供はパソコンで遊んでいたりするしね。会話が成り立たないのが事実で、だから、しつけというのがないんですね。

池崎 親が子供に言葉をしつけていく風潮を作り出して行くには、世の男性方の出番じゃないかと思えます。と申しますのは、やはり社会で、自分の

会社なり組織の中で、後輩やら若い部下達が、どういう日本語を使っているか気になっていらっしゃるだろうと思いますし、時には若い人たちに「その口の利き方はなんだ」と注意されているはずなんです。言葉の使い方です。その方のキャリアと申しますか、仕事や人生が変わって行くものだと思います。その社会の中で揉まれていらっしゃるお父様、おじいさま方が、ご家庭や地域社会で率先して、お子様や後輩の方に教えて頂きたいと思っております。

近衛 そうですね。それから、自分自身の言葉を持つと言うか、自分自身の言葉で話せるということが大切です。日本人の挨拶というのは、ちょっと聞いただけでは儀礼的なつまらない話の内容が多いんですが、同じ事を言うにしても、一言気の利いた事を言うと、とても印象に残るんですね。だから、そういう意味でも、同じことを言うにしても、他人に伝われば良いということじゃなくて、上手く楽しくきれいに伝えるように努めるべきじゃないですかね。

池崎 それをぜひ皆様に分かって頂けるように、今日のお話をできるだけ多くの皆様にご紹介し、お考え頂くきっかけになればと思っております。今日はお忙しい中貴重なお時間とお話を頂きまして、本当にありがとうございました。



Summary

I feel that the communication skills of young Japanese is worsening. We Japanese have a culture that tends to express thinking non-verbally, rather than through speaking. We should examine this tendency, evaluate the merits of it, and we should think again about how to communicate. For learning a foreign language we need to listen to genuine spoken language from native speakers from a young age, and we must not forget that we need to train ourselves to speak our mother tongue beautifully. If you can't speak expressively and subtly with your mother tongue, you will never be able to speak foreign languages well. It is especially important that you choose your words and phrases precisely in Japanese, to suit the individual you are speaking to. You should learn how to speak in Japanese from a young age, and also you should try to speak better and more beautifully with your own words.